

帰還への挑戦：川内村

本報告では、東電福島第一発電所事故後直後の川内村の村民避難と、その後の帰還のための様々な活動と挑戦について述べる。

川内村は、事故現場から半径 10～30km の圏内にある。川内村の全ての住民は 2011 年 3 月 16 日に村外へ避難した。2012 年 1 月には、放射線レベルの低下に伴って、川内村への村民の帰還が宣言された。2012 年 4 月以来、学校その他公共施設等に於いて、川内村の行政サービスが通常に戻っている。

本報告では、原子力発電所の事故が川内村村民に与えた影響、川内村への帰還のための 3 つのキーワードと具体的な戦略、帰還しない理由、住環境の除染作業とその結果、について紹介する。

川内村への帰還のための 3 つのキーワードは、選択（住民個々の選択を尊重する）、自立（生活再建のための自立を奨励する）および信頼（行政と住民の間で友好的な関係を構築する）である。